

# ガス排出処理方法について

ファクトケイ株式会社

弊社ガス腐食試験機KGシリーズはガス排出処理に 1. 水洗浄⇒ 2. 活性炭カートリッジを経由し、ガス腐食試験機外へ人体に影響が無いレベルで送気しています。

(ガス排出処理経路図は別紙参照)

一般的なガス腐食試験規格でご使用の場合、約1.5年間処理可能な設計となっております。年1回の定期点検をご依頼頂ければ、弊社にて消耗部品・活性炭カートリッジの定期交換を実施させて頂いておりますが、装置ご担当者の方にも定期的なガスチェックの実施をお願いしております。

送気ラインにガス検知管を用いて吸引し、万が一100ppb程度またはそれ以上のガスが検知された場合、活性炭カートリッジの交換をお願いします。

ガス種にもよりますが、20回程度吸引し、確認することをお薦めします。

地域により差はありますが、大気中に含まれるH<sub>2</sub>S・SO<sub>2</sub>・NO<sub>2</sub>・Cl<sub>2</sub>等の環境ガス濃度は2～30ppb程度ありますので予めご注意ください。(測定地域によりガス種類・濃度が異なります)

## 労働環境基準

### 二酸化いおう (SO<sub>2</sub>)

1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1ppm以下であること。

### 二酸化窒素 (NO<sub>2</sub>)

1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。

とあります。

年1回の定期点検及び日常のガスチェックを実施頂ければ、安全の範囲内での装置使用が可能です。

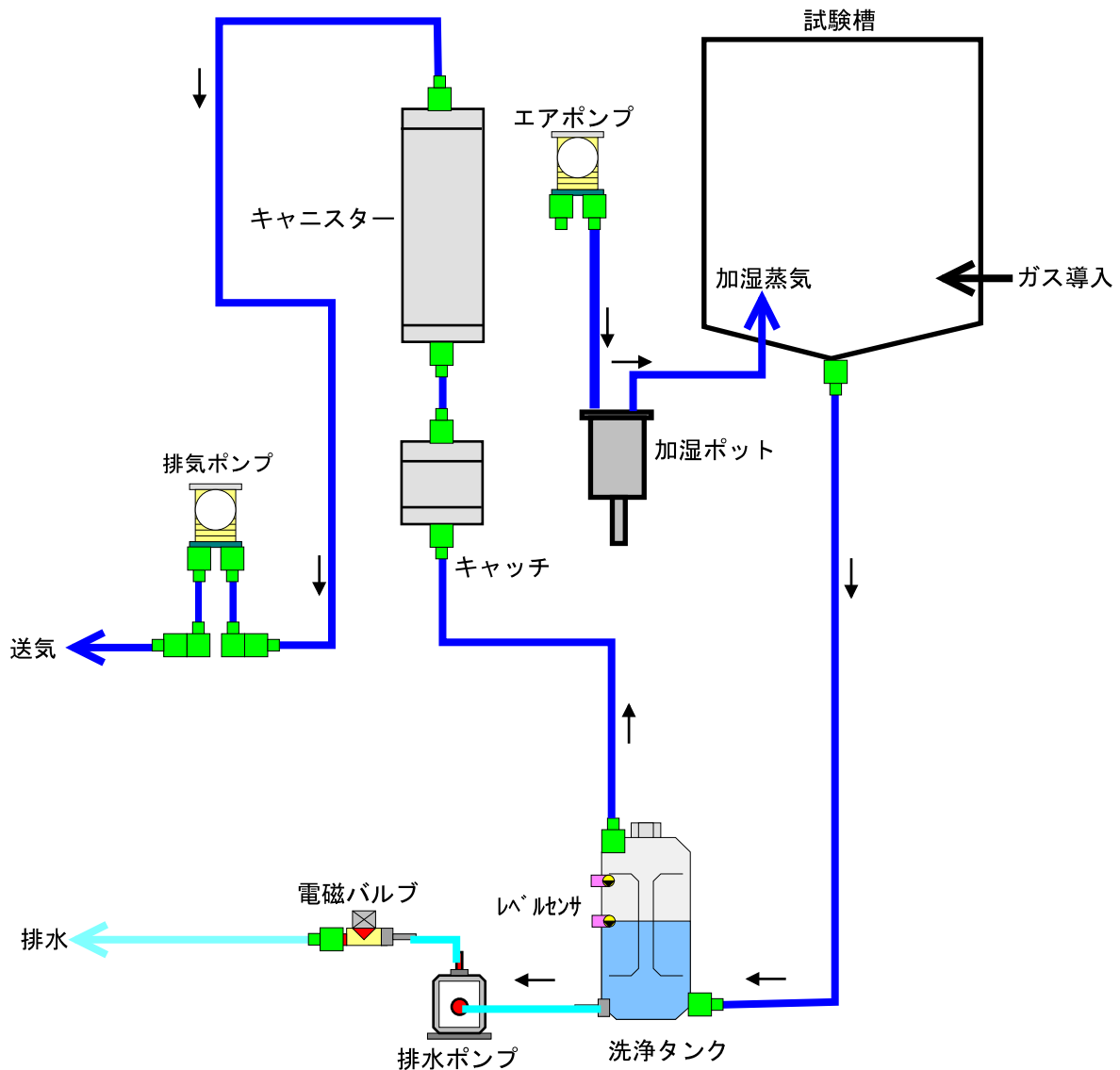
また装置から排出されます排水に関しましても、

無色透明固形物無しの酸性水(約pH2～3.5ガス種や濃度により異なる)排出するので

処理する場合には30～50倍で希釈するか。中和剤で中和後廃棄して下さい。

(排水の分析結果は別紙参照)

# ガス排出处理経路図



- ①試験槽内に導入されたガスは、加湿で用いられた純水を含んだ雰囲気と共に、排気ポンプにより吸引（負圧による吸引）され、洗浄タンクへと入ります。
- ②洗浄タンク内には、加湿で用いられた純水が、常に一定量溜まるようになっています。試験槽から入った雰囲気はこの水の中を通る事により、ガス成分を（約20%）水に溶け込ませます。（一定量以上に水が溜まった場合は、自動的に試験機外へ排出されます）
- ③雰囲気は洗浄タンクを経た後、キャニスターへ入ります。キャニスター内は活性炭フィルターとなっており、ここで雰囲気内に残留するガス成分（約80%）を吸着します。
- ④最終的に排気ポンプを経て試験機外へ送気されます。

2015年 11月 18日

受注番号 : CKJ3-15-3330

報告書番号 : CKJ3153330R01

ファクトケイ株式会社 御中

沖エンジニアリング株式会社  
〒179-0084 東京都練馬区氷川台3-20-16  
TEL : 03-5920-2356  
FAX : 03-5920-2306

## 分析結果報告書

試料受取日 : 2015年11月 6日

測定日 : 2015年11月 9日

担当者 : 西本浩司

試料名称	単位	Blank	KG200(I)
pH(水温)	---	4.5 (23°C)	3.1 (23°C)
電気伝導度	mS/m	0.088	17
フッ素イオン(F)	mg/L	< 0.01	0.04
塩化物イオン(Cl)	mg/L	0.01	1.0
亜硝酸イオン(NO2)	mg/L	< 0.02	< 0.02
臭化物イオン(Br)	mg/L	< 0.02	< 0.02
硝酸イオン(NO3)	mg/L	< 0.02	0.90
硫酸イオン(SO4)	mg/L	< 0.05	16
りん酸イオン(PO4)	mg/L	< 0.05	< 0.05
リチウムイオン(Li)	mg/L	< 0.002	< 0.002
ナトリウムイオン(Na)	mg/L	0.009	0.17
アンモニウムイオン(NH4)	mg/L	0.10	0.15
カリウムイオン(K)	mg/L	< 0.01	0.54
カルシウムイオン(Ca)	mg/L	< 0.01	0.43
マグネシウムイオン(Mg)	mg/L	< 0.01	0.08

分析方法 : イオンクロマトグラフ法

(サーモフィッシャーサイ製 イオンクロマトグラフィ ICS-2100&ICS-1600)